

文字摺通信

第 116 号
2026年 7月15日
発行:文字摺歴史文化社

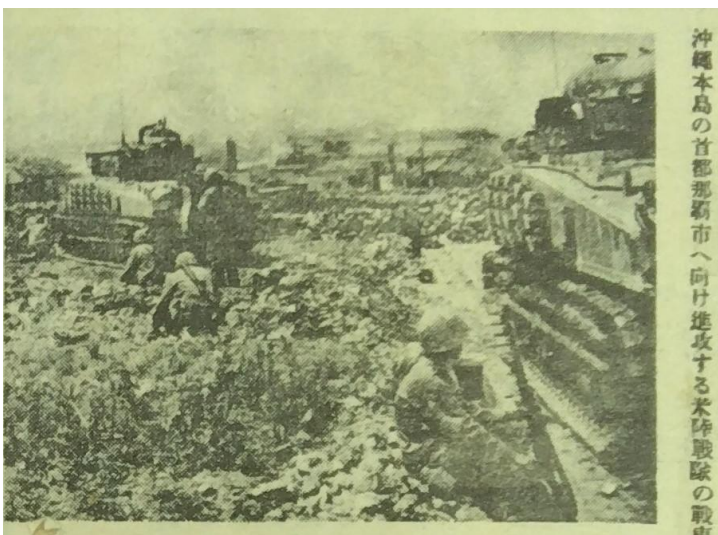
こういう宣伝ビラもあったんだ？！

『マリヤナ時報』

友人の菊地武彦さんから貴重な戦時資料をみせていただきました。菊地さんは東京生まれですが、昭和19年12月、5歳の時に父の故郷大沼郡昭和村に疎開します。教員のお父さんは仕事の都合上東京に残り、周旋間際に昭和村に来られたそうです。そのお父さんが所持していたという飼料、昭和20年6月8日発行の『マリヤナ時報』です。マリヤナとは、サイパン島、テニアン島、グアム島などからなるマリアナ諸島のことで、1944年8月に制圧した米軍はここを拠点に日本空襲を行いました。そして日本の降伏を勧めるための宣伝ビラを空から撒きました。

こうした宣伝ビラは、日本人捕虜の中の前新聞記者らを使ってハワイで編集されたもので、終戦までに450万枚以上が投下されたと言われています。宣伝ビラの大きさはA5版ぐらいのものと思っていましたが、これはA3版二つ折りの新聞様式のもので、全紙面は紹介できませんが、写真と見出し・出だしの記事を幾つか紹介します。

※時報の紹介にあたっては、地の文を区別するため、時報の見出しはHGPゴシックE体12ポイントで、時報の本文記事は行書体10.5ポイントで表した。



左の写真は、時報タイトルの左隣の記事の写真で、説明文は

「沖縄本島の首都那覇市へ向け進攻する米陸戦隊の洗車」とあります。

第4面の右上トップ記事は

「莫大な日本艦船を 米潜水艦が撃沈す」

「【グアム六月一日癸】米国潜水艦隊十四人の乗組員に対する最近の論功行賞に際してニミッツ元帥は今次戦争以来米国潜水艦により日本艦船に加へられた莫大な損失を発表した。四十二ヶ月以前の開戦以来米穀潜水艦隊

は日本船舶一一九隻。約四千九百萬噸を撃沈したとニミッツ提督は発表した。右数字中には一二六隻の軍艦を含み、航空母艦四隻及び巡洋艦並びに駆逐艦も含まれてゐる。」